

〔報告第 17 号 寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選  
定委員会の答申について〕



平成 29 年 7 月 13 日

寝屋川市教育委員会

教育長 高須 郁夫 様

寝屋川市立義務教育諸学校

教科用図書選定委員会

委員長 野呂 泰



平成 30 年度使用の寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書について (答申)

教育委員会より諮問のありました標記の件について、別添のとおり答申いたします。

記

1. 答申事項

(1) 平成 30 年度使用寝屋川市立小学校教科用図書の選定に関する事項

平成 30 年度使用  
寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書について  
(答申)

寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

1. 発行者（会社名） 8 社

2. 東書 11. 学図 17. 教出 38. 光村 116. 日文 208. 光文  
224. 学研 232. あかつき

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書・光村・日文・光文は、教材の冒頭に、学習のテーマ等を示すとともに、教材末尾に学習後の行動につながる問いを設定している。学図・教出でも、教材を読む前にどのような価値について学習するのか等を把握できるよう工夫されている。学研は、教材巻頭に主題名を明記しないことで、児童の課題意識に配慮した構成を取り入れるとともに、異なる複数の意見を教材に提示するなどの工夫をしている。

<人権の取扱い>

各社ともに、「生命の尊さ」を重点課題として取り扱っている。日文・あかつきは、発達段階に応じた命の特集ページを設け、考えを深められるよう工夫している。

<内容の程度>

各社とも、いじめに関する教材を多数取り扱っている。また、問題解決的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。教出・光村では、各教材の終わりに、問題を解決するための発問が複数用意されている。日文は、「学習の手引き」で、児童同士の話し合いの様子や、役割演技の様子を例示している。光文は、教材中に様々な視点での投げかけがあり、子どもの思考を促す工夫をしている。学研は、「深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう」の四つの観点を提示し学習の道筋を示している。

<組織・配列>

各社とも、年間行事等との関連付けを意識し教材を効果的に配列している。学図は、全国的な啓発活動等に配慮して、時節に合わせた配列になっている。また、光村は1つの学年を4つのまとまりに分け、重点化を図っている。学研・あかつきは、重点テーマを設定し、教材を連続して配置している。

<創意工夫>

各社とも、自らの成長を実感できるよう工夫されている。学図・日文・あかつきは、分冊の「活動」を持ち帰らせたり、道徳ノートのプロテクト記入欄を設けたりすることで、家庭との連携を図ることができるよう配慮されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書では、学習したことを日常や郷土とのつながりに関連させることができるような資料を掲載している。光村・公文・学研では、道徳の学びを他教科や日常生活につなげるためのヒントを示している。